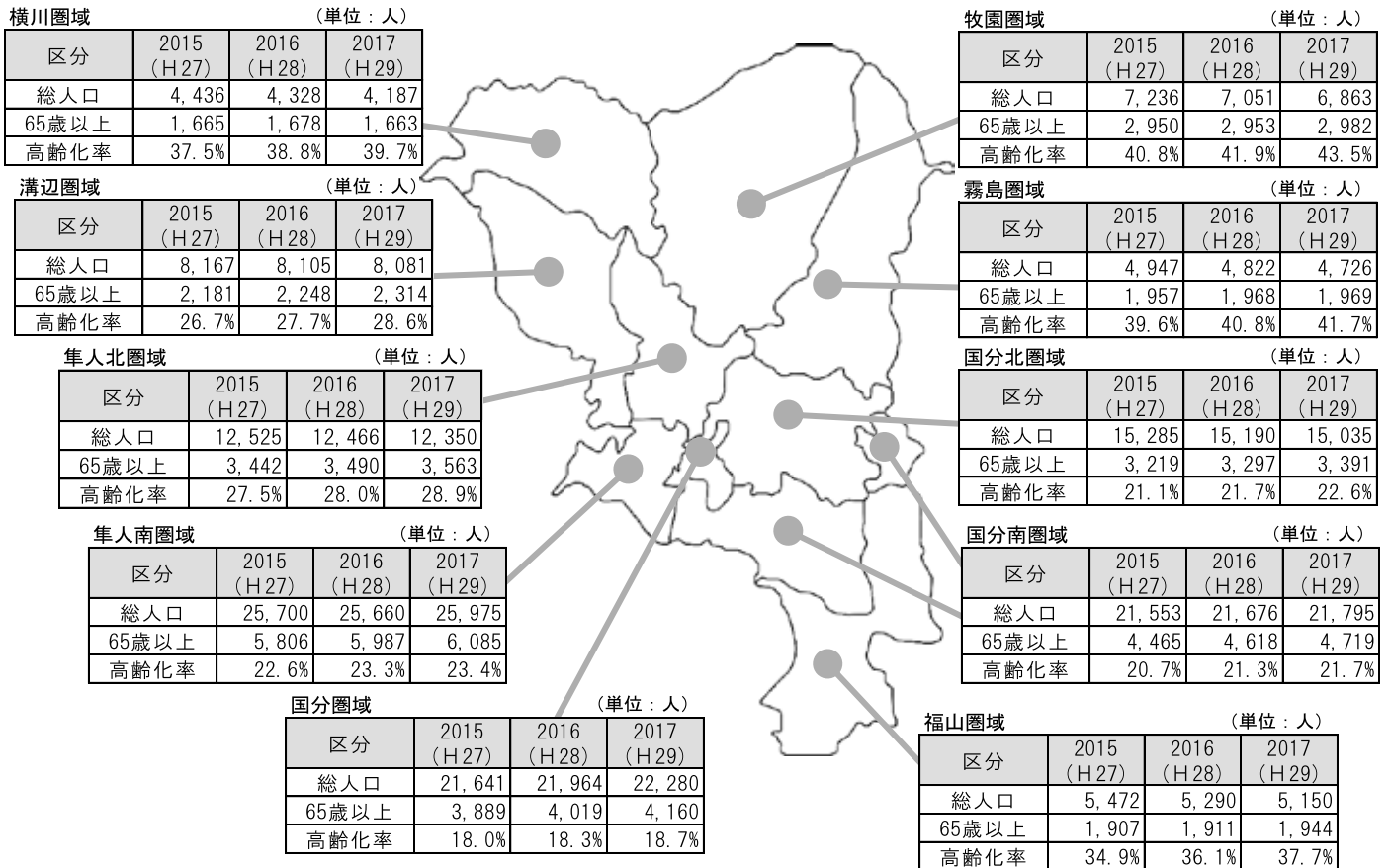


第 3 章 日常生活圏域の状況

(1) 日常生活圏域の範囲

<図表 No. 51 日常生活圏域図と圏域ごとの人口等の状況>



<図表 No. 52 日常生活圏域区分>

| 圏域 | 地区自治公民館名 |
|-------|--|
| 国分北圏域 | 東襲山、清水、姫城、郡山、木原、川原 |
| 国分圏域 | 国分東、国分西、向花、府中、新町、野口、上小川 |
| 国分南圏域 | 広瀬、福島、松木、湊、上井、川内、平山、本戸、敷根、下井、上之段、塚脇 |
| 溝辺圏域 | 瀬竹、下有川切門、石原、上石原、永尾、曾我、据石ヶ岡、稻荷、宮久、宮川内、三縄、陵北、水尻・横頭、大川内岡、石峯、麓原、玉利、論地、陵南、西原、十三塚、桑坂 |
| 横川圏域 | 山ヶ野、安良、中央、尾田、植村今村、西、佐々木 |
| 牧園圏域 | 牧園、三体、万膳、中津川、持松、高千穂 |
| 霧島圏域 | 永水、向田、大川、中央、湯之宮、待世、田口、狭名田、栢野、桂内、霧島 |
| 隼人北圏域 | 姫城、日当山、松永、中福良 |
| 隼人南圏域 | 小浜、小野、富隈、宮内 |
| 福山圏域 | 小廻、中央、大廻、東牧之原、西牧之原、下牧之原、福地、福沢、佳例川、比曾木野 |

(2) 各日常生活圏域の状況

第3期以降の市町村介護保険事業計画においては、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続することができるようにするため、市町村内を日常生活の圏域に分けることとしています。

日常生活圏域の設定については、地理的条件、人口、交通事情、その他社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況等を総合的に勘案し、保険者ごとに定めることになっています。

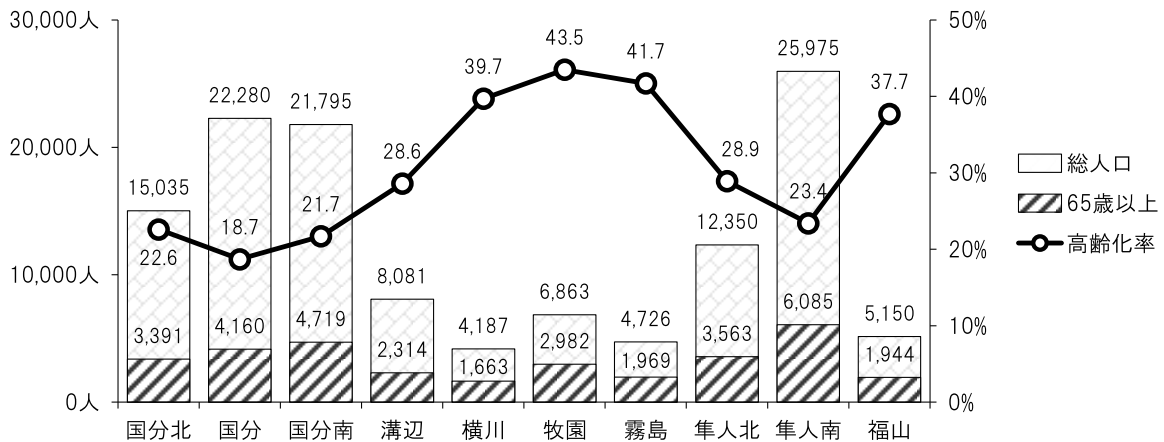
本市の日常生活圏域については、合併前の旧市町単位を基本とし、国の示す1圏域あたりの高齢者人口3,000~6,000人を目安としながら、様々な福祉関係団体等の単位を参考に10圏域からなる日常生活圏域を設定しています。

1. 日常生活圏域ごとの比較

① 人口構成の状況

日常生活圏域ごとの高齢化率は、国分圏域のみ20%を下回っていますが、牧園圏域、霧島圏域では40%を超えています。

<図表 No. 53 日常生活圏域ごとの人口構成区分と高齢化率>

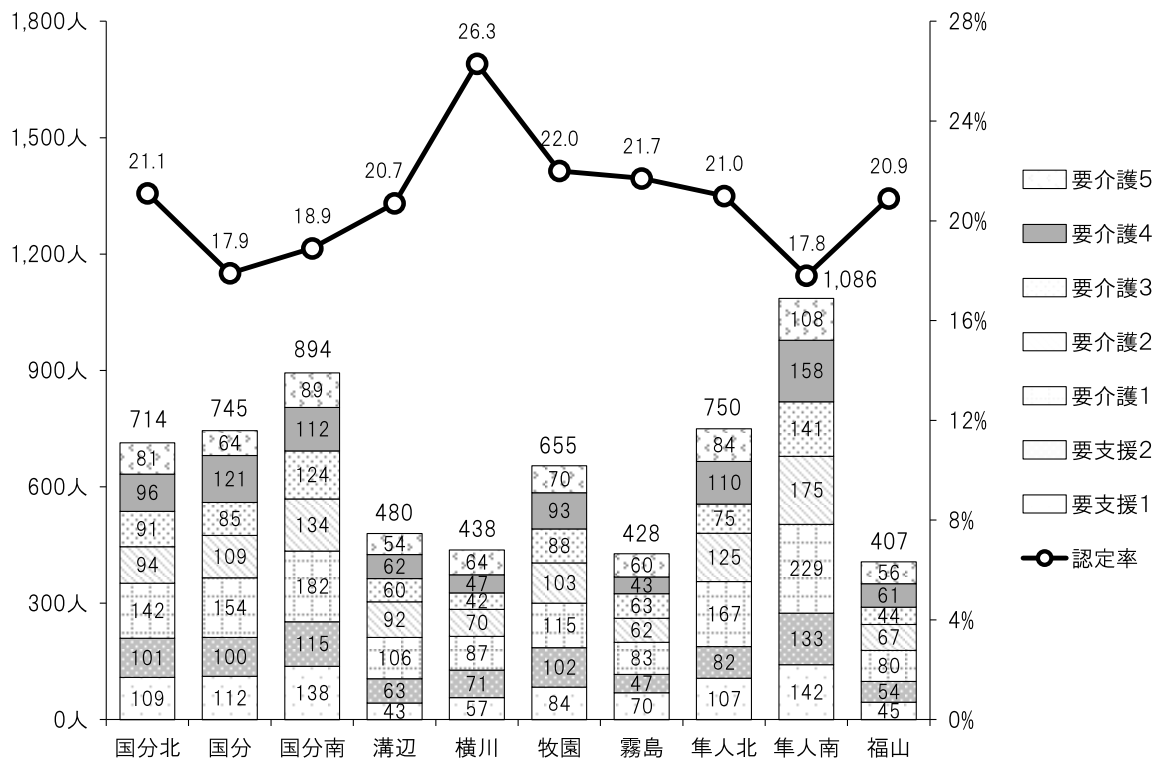


資料：住民基本台帳 2017(平成29)年9月末

② 要介護（要支援）認定者の状況

日常生活圏域ごとの要介護（要支援）認定者数は隼人南が最も多く、次いで国分南、隼人北となっています。認定率では横川が26.3%と最も高く、次いで牧園、霧島、国分北となっています。

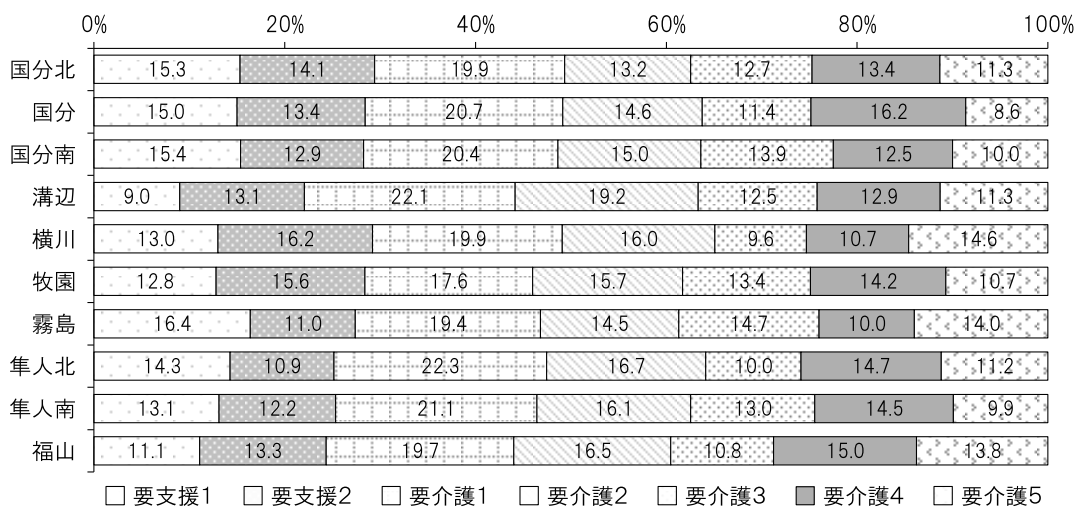
<図表 No. 54 日常生活圏域ごとの要介護（要支援）認定者数と認定率>



(長寿・障害福祉課調べ)

介護度別の割合を圏域別で見ると、各圏域とも要介護2までが約6割を占めています。

<図表 No. 55 日常生活圏域ごとの要介護度別比率>



(長寿・障害福祉課調べ)

③ 地域密着型サービス事業所の状況

日常生活圏域ごとの地域密着型サービス事業所の整備状況は、小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護は、各圏域に1箇所以上整備されています。

認知症対応型通所介護については、合計で7箇所79名の定員となっており、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護は3箇所78名の定員となっています。

また、小規模の通所介護が地域密着型通所介護に移行したことにより下表のと通りの整備状況となっています。

<図表 No. 56 日常生活圏域別地域密着型サービス事業所の状況>

(単位：箇所、人)

| | 認知症対応型通所介護 | | 地域密着型通所介護 | | 小規模多機能型居宅介護 | | 認知症対応型共同生活介護 | | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | |
|-----|------------|----|-----------|-----|-------------|-----|--------------|-----|----------------------|----|
| | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 |
| 国分北 | 1 | 10 | 6 | 75 | 1 | 29 | 2 | 27 | | |
| 国分 | 2 | 24 | 6 | 89 | 3 | 61 | 4 | 45 | 1 | 29 |
| 国分南 | | | 5 | 70 | 4 | 112 | 4 | 36 | | |
| 溝辺 | 1 | 12 | 1 | 10 | 2 | 54 | 2 | 27 | | |
| 横川 | | | | | 1 | 25 | 1 | 9 | 1 | 20 |
| 牧園 | | | 1 | 10 | 2 | 37 | 1 | 18 | | |
| 霧島 | 1 | 12 | | | 1 | 25 | 3 | 54 | | |
| 隼人北 | 1 | 9 | 3 | 48 | 2 | 45 | 3 | 63 | 1 | 29 |
| 隼人南 | 1 | 12 | 5 | 68 | 1 | 25 | 3 | 63 | | |
| 福山 | | | 1 | 18 | 1 | 29 | 1 | 9 | | |
| 合計 | 7 | 79 | 28 | 388 | 18 | 442 | 24 | 351 | 3 | 78 |

[長寿・障害福祉課調べ 休止中の事業所を除く 2017(平成29)年10月1日]

④ 居宅介護サービス事業所の状況

日常生活圏域ごとの居宅介護サービス事業所の整備状況についてみると、居宅介護支援事業所、訪問介護、通所介護についてはすべての圏域で整備されていますが、訪問看護や訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなどの医療系事業者の未整備地区があります。

<図表 No. 57 日常生活圏域別居宅介護サービス事業所の状況>

(単位：箇所)

| | 居宅介護支援事業所 | 訪問介護 | 訪問入浴介護 | 訪問看護 | 訪問リハビリテーション | 通所介護 | 通所リハビリテーション | 短期入所生活介護 | 短期入所療養介護 | 福祉用具貸与 | 福祉用具販売 | 特定施設入居者生活介護 |
|-----|-----------|------|--------|------|-------------|------|-------------|----------|----------|--------|--------|-------------|
| 国分北 | 7 | 6 | | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 国分 | 7 | 4 | | 3 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 |
| 国分南 | 2 | 1 | | | 1 | 3 | 1 | | | | | 2 |
| 溝辺 | 2 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | |
| 横川 | 2 | 1 | | | | 2 | | 2 | | | | |
| 牧園 | 2 | 2 | | 2 | | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 霧島 | 2 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | | | 3 |
| 隼人北 | 6 | 6 | 1 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 | | | 1 |
| 隼人南 | 7 | 3 | | 2 | | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 福山 | 3 | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 合計 | 40 | 28 | 1 | 15 | 8 | 21 | 15 | 13 | 10 | 7 | 6 | 11 |

[長寿・障害福祉課調べ 休止中の事業所を除く 2017(平成29)年10月1日]

⑤ 介護サービス施設の状況

日常生活圏域ごとの介護サービス施設の整備状況については、下表のとおりとなっています。

<図表 No. 58 日常生活圏域別介護サービス施設の状況>

(単位：箇所、人)

| | 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) | | 介護老人 保健施設 | | 介護療養型 医療施設 | | 認知症対応型 共同生活介護 (グループホーム) | | 地域密着型介護 老人福祉施設 入所者生活介護 (地域密着型特別 養護老人ホーム) | | 合計 | |
|-----|-------------------------|-----|--------------|-----|---------------|----|-------------------------------|-----|--|----|----|-------|
| | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 |
| 国分北 | 2 | 160 | 1 | 80 | | | 2 | 27 | | | 5 | 267 |
| 国分 | | | | | 1 | 3 | 4 | 45 | 1 | 29 | 6 | 77 |
| 国分南 | | | | | | | 4 | 36 | | | 4 | 36 |
| 溝辺 | 2 | 80 | | | 1 | 6 | 2 | 27 | | | 5 | 113 |
| 横川 | 1 | 50 | | | | | 1 | 9 | 1 | 20 | 3 | 79 |
| 牧園 | 1 | 90 | 1 | 70 | | | 1 | 18 | | | 3 | 178 |
| 霧島 | 1 | 30 | 1 | 50 | 1 | 54 | 3 | 54 | | | 6 | 188 |
| 隼人北 | 1 | 50 | 1 | 80 | | | 3 | 63 | 1 | 29 | 6 | 222 |
| 隼人南 | | | 1 | 25 | | | 3 | 63 | | | 4 | 88 |
| 福山 | 1 | 90 | | | 1 | 5 | 1 | 9 | | | 3 | 104 |
| 合計 | 9 | 550 | 5 | 305 | 4 | 68 | 24 | 351 | 3 | 78 | 45 | 1,352 |

[長寿・障害福祉課調べ 2017(平成29)年10月1日]

⑥ 介護保険以外のサービス施設の状況

日常生活圏域ごとの介護保険以外のサービス施設の整備状況については、下表のとおりとなっています。

<図表 No. 59 日常生活圏域別介護サービス施設の状況>

(単位：箇所、人)

| | 養護老人 ホーム | | 生活支援 ハウス | | 経費老人 ホーム | | 介護付有料 老人ホーム | | 住宅型有料 老人ホーム | | サービス付き 高齢者向け 住宅 | | 合計 | |
|-----|-------------|-----|-------------|----|-------------|-----|----------------|-----|----------------|-----|-----------------------|-----|----|-------|
| | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 | 箇所 | 定員 |
| 国分北 | 1 | 50 | 1 | 10 | 1 | 50 | 1 | 10 | 2 | 56 | 2 | 64 | 8 | 240 |
| 国分 | | | | | | | 1 | 40 | 1 | 15 | 2 | 44 | 4 | 99 |
| 国分南 | | | | | | | 2 | 30 | 3 | 83 | 2 | 66 | 7 | 179 |
| 溝辺 | | | | | | | | | 1 | 9 | | | 1 | 9 |
| 横川 | 1 | 60 | | | | | | | | | | | 1 | 60 |
| 牧園 | | | | | | | | | 2 | 14 | | | 2 | 14 |
| 霧島 | | | | | 1 | 50 | 3 | 77 | | | | | 4 | 127 |
| 隼人北 | 1 | 50 | | | 1 | 30 | 1 | 48 | 7 | 139 | 3 | 32 | 13 | 299 |
| 隼人南 | | | | | | | 2 | 38 | 4 | 139 | | | 6 | 177 |
| 福山 | | | | | | | | | | | 1 | 9 | 1 | 9 |
| 合計 | 3 | 160 | 1 | 10 | 3 | 130 | 10 | 243 | 20 | 455 | 10 | 215 | 47 | 1,213 |

[長寿・障害福祉課調べ 休止中の事業所を除く 2017(平成29)年10月1日]

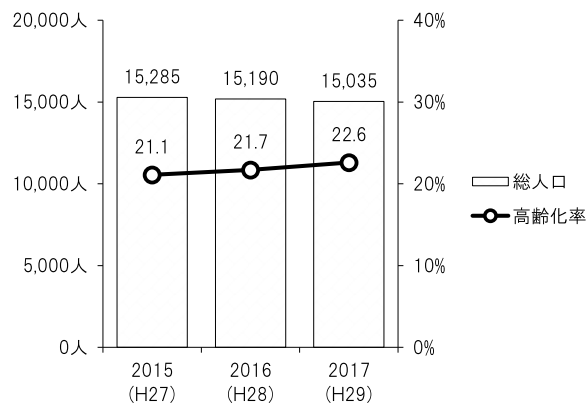
2. 日常生活圏域ごとの状況

① 国分北圏域

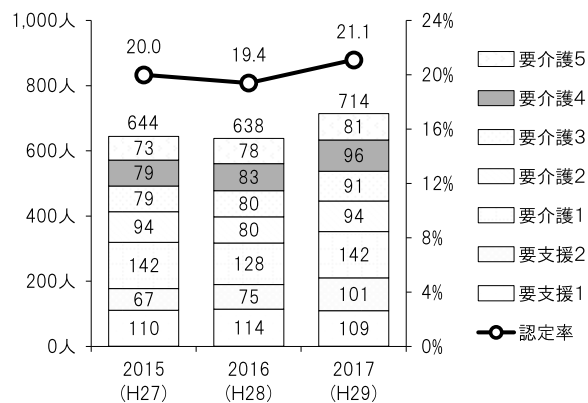
国分北圏域では、総人口は微減傾向となっておりますが、高齢化率は2015(平成27)年度から1.5ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっております。

<図表 No. 60 国分北圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| サービス種別 | 箇所 | サービス種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|-----|
| 訪問介護 | 6 | 通所リハビリテーション | 2 |
| 訪問看護 | 2 | 短期入所生活介護 | 2 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 短期入所療養介護 | 1 |
| 通所介護 | 3 | 特定施設入居者生活介護 | 1 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） | | 2 | 160 |
| 介護老人保健施設 | | 1 | 80 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 2 | 27 |

◆地域密着型サービス事業所数

| サービス種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 1 | 10 |
| 地域密着型通所介護 | 6 | 75 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 1 | 29 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 2 | 27 |

| | | |
|---|--|---|
| <p>国分北圏域の人口推計 (2025年推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 65歳以上人口 : 4,121人 ● 高齢化率 : 30.2% ● 65歳以上の1人世帯数 : 1,615世帯 | | <p>[2017(平成29)年実績値]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3,391人 22.6% 1,210世帯 |
|---|--|---|

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出の移動手段の設問では、一般高齢者において、「自動車」の回答が全体よりわずかに高く、「路線バス」が他の圏域より高くなっています。バスや電車を使って1人で外出の割合も全体より高くなっています。在宅要介護(支援)者では、移動手段で「病院や施設のバス」の回答が他の圏域より高くなっています。

自分で食事の用意をしているかの設問において、一般高齢者では「できるけど、していない」「できない」の回答が全体より高くなっています。在宅要介護(支援)者においても「できない」と回答した方が、唯一8割を上回り、食事の準備が難しいと感じている方が多いという結果となっています。

自分で食品・日用品の買物をしているかの設問では、一般高齢者で「できるし、している」の回答が他の圏域より高くなっています。

地域活動に関して、一般高齢者では「参加者」としても「お世話役」としても『参加したい』の意向が他の圏域よりも高く、自治会への参加についても「参加している」と答えた方の割合も同様に高くなっていますが、若年者では、地域活動やボランティア活動等への参加意向で、「あまり参加したくない」の割合が、全体より高くなっています。

自治会活動に「参加していない」方の割合が、若年者、在宅要介護(支援)者で、全体の回答より高くなっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れて欲しいことの設問では、若年者で「高齢者に対する犯罪や交通事故防止の対策」が他の圏域より高くなっています。

考察・課題

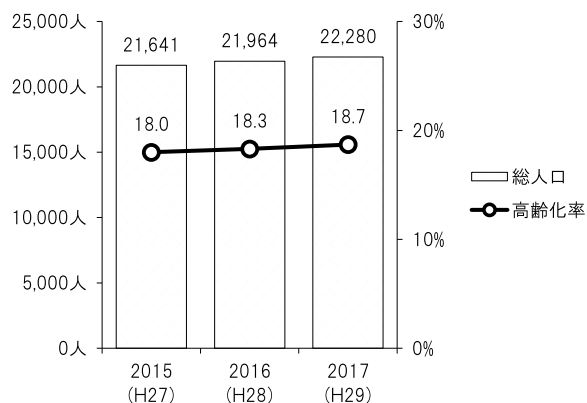
- 地域活動の必要性の理解を図り、若年者、在宅要介護(支援)者の活動の参加に結びつける必要があります。
- 食事の準備が難しいと感じている方が多いという結果から、今後支援量が増える可能性がありますので、食事の準備が自分でできるように料理教室等を地域活動において、実施することが有効であると考えられます。

② 国分圏域

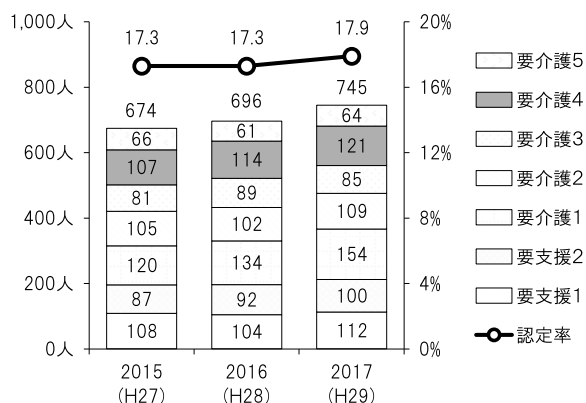
国分圏域では、総人口は微増傾向となっておりますが、高齢化率は2015(平成27)年度から0.7ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっております。

<図表 No. 61 国分圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|--------------------------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 4 | 通所リハビリテーション | 4 |
| 訪問看護 | 3 | 短期入所生活介護 | 1 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 短期入所療養介護 | 1 |
| 通所介護 | 1 | 特定施設入居者生活介護 | 1 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護療養型医療施設 | | 1 | 3 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 4 | 45 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（地域密着型特別養護老人ホーム） | | 1 | 29 |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|----------------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 2 | 24 |
| 地域密着型通所介護 | 6 | 89 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 3 | 61 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 4 | 45 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | 1 | 29 |

| | | |
|------------------|-------------------|-------------------------|
| 国分圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
| ● 65歳以上人口 | : 5,063人 | 4,160人 |
| ● 高齢化率 | : 20.8% | 18.7% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 1,789世帯 | 1,376世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出の移動手段に関して、市街地に近いこともあり、「徒歩」「自転車」の回答が全体より高くなっています。

生活支援に関して、現在困っていることの設問では、在宅要介護(支援)者において「特に不安はない」の回答が最も高い圏域となっています。

地域活動に関しては、自治会への参加の設問において、全ての調査対象に共通して、「参加していない」の回答割合が最も高い圏域となっており、地域のつながりに関しての設問においても、一般高齢者、若年者に共通して、「あまり感じない」「感じない」「わからない」の回答割合の合計が最も高くなっています。

また、地域で行われていることの設問において、一般高齢者、若年者共に「行われていることはない(よく知らない)」の回答割合が最も高い圏域となっています。安否確認、見守り活動に関しても「どちらかといえば不十分」と「ほとんど行われていない」を合わせた割合が高くなっています。

困っているときに近くに頼める人の設問において、「頼める人はいない」の回答についても最も高くなっています。

その他の地域活動やボランティア活動における各設問においても「あまり参加したくない」といった回答の割合が総じて高くなっています。

今後どのような場所で介護を受けたいかの設問において、一般高齢者では、「高齢者向けの住まい」、「施設」「医療機関」を合わせた割合が最も高い圏域となっています。

介護予防の取組について市町村に力を入れてほしいことの設問では全ての選択項目において、全体を上回る結果となっており、介護予防への関心が高い事がうかがえます。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れて欲しいことの設問では、若年者で「高齢者が働き続けられる環境づくり」が他の圏域より高い回答となっています。

考察・課題

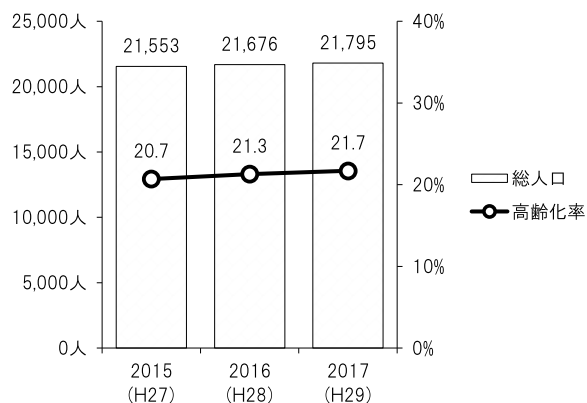
- 「地域でのつながり」において、他の圏域より希薄化がうかがえるため、地域に対する関心を高めるための情報提供や実際に活動に参加できるためのきっかけづくりの構築が必要です。介護予防への関心の高さがうかがえることから、地域活動で介護予防へ取り組み、地域活動への参加を促進することが有効と考えられます。
- 社会資源に関しては、各種介護事業所が充実しており、今後は施設や医療機関などで介護を受けたいと考えている割合が多い圏域となっています。

③ 国分南圏域

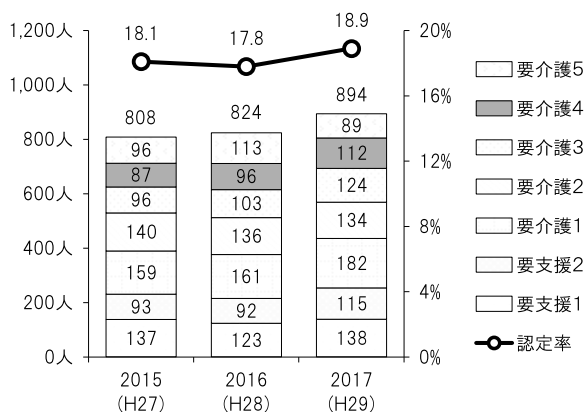
国分南圏域では、総人口は微増傾向となっていますが、高齢化率は2015(平成27)年度から1.0ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 62 国分南圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護(要支援)認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| サービス種別 | 箇所 | サービス種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 1 | 通所リハビリテーション | 1 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 特定施設入居者生活介護 | 2 |
| 通所介護 | 3 | | |
| | | 箇所 | 定員 |
| 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) | 4 | 4 | 36 |

◆地域密着型サービス事業所数

| サービス種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|-----|
| 地域密着型通所介護 | 5 | 70 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 4 | 112 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 4 | 36 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>国分南圏域の人口推計 (2025年推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 65歳以上人口 : 5,370人 ● 高齢化率 : 24.5% ● 65歳以上の1人世帯数 : 1,974世帯 | ← | <p>[2017(平成29)年実績値]</p> <ul style="list-style-type: none"> 4,719人 21.7% 1,527世帯 |
|---|---|---|

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出に関して、一般高齢者で「控えている」の回答が全体を上回っており、外出を控えている理由としては、「外での楽しみがない」の回答割合が、他の圏域と比較して高くなっています。

転倒に関して、一般高齢者で「とても不安」と「やや不安」を合計した回答の割合が、全圏域の中で最も高くなっています。介護予防の取組について、力を入れてほしいことにおいても一般高齢者では「運動・転倒予防に関すること」の項目のみが全体を上回っており、若年者では「運動・転倒予防に関すること」を除く項目で全体を上回る結果となっています。

地域活動に関しては、自治会への参加の設問において、一般高齢者と若年者で、「参加していない」の割合が、全体の回答の割合を上回っていますが、若年者の地域で行われていることの設問では、「行われていることはない(よく知らない)」の回答が、全体を下回っています。

地域づくり活動への参加意向についても、全ての調査対象で「参加したくない」の割合が、全体を上回っています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れて欲しいことの設問では、一般高齢者で「高齢者に対する犯罪や交通事故防止の対策」が他の圏域より高い回答となっています。

今後どのような介護を受けたいかの設問では、一般高齢者、若年者共に「特別養護老人ホームなどの施設」が他の圏域より高くなっています。

考察・課題

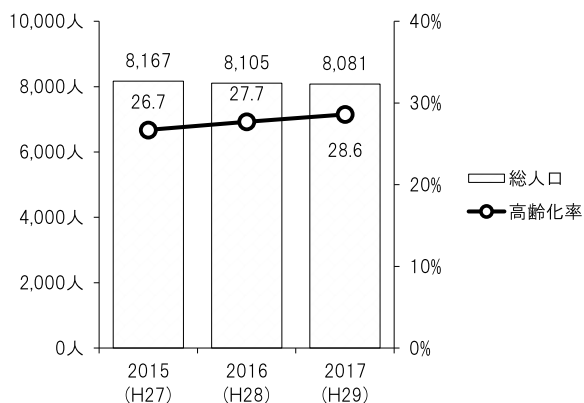
- 転倒に関しての不安がやや高いことから、転倒予防に関する運動教室などの介護予防を含めた健康づくりの充実が必要であると思われます。
- 自治会等の地域活動において、介護予防や犯罪・交通事故対策等の地域住民が関心のある取組を行い、参加を促す必要があります。
- 社会資源に関しては、小規模多機能型居宅介護の設置箇所が、一番多い圏域となっており、現在のところ、地域での生活を支える基盤は整備されているといえます。

④ 溝辺圏域

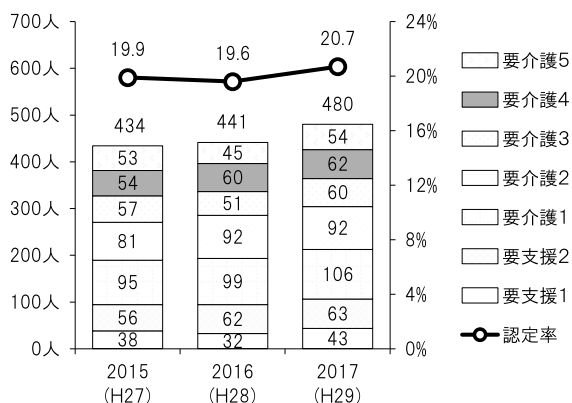
溝辺圏域では、総人口は減少傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から1.9ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 63 溝辺圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護(要支援)認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 1 | 通所リハビリテーション | 1 |
| 訪問看護 | 1 | 短期入所生活介護 | 2 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 短期入所療養介護 | 1 |
| 通所介護 | 2 | | |
| | 箇所 | 定員 | |
| 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) | 2 | 80 | |
| 介護療養型医療施設 | 1 | 6 | |
| 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) | 2 | 27 | |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 1 | 12 |
| 地域密着型通所介護 | 1 | 10 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 2 | 54 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 2 | 27 |

| 溝辺圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
|---------------|------------|------------------|
| ● 65歳以上人口 | : 2,454人 | 2,314人 |
| ● 高齢化率 | : 34.0% | 28.6% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 975世帯 | 684世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出方法に関して、一般高齢者で「自動車（自分で運転）」の割合が、他の圏域より突出して高くなっています。また、周囲の環境の困りごとにおいて、「買物や通院に不便」の回答が、全体より高くなっています。

地域での活動に関する設問では、一般高齢者で、自治会とボランティアのグループへ「参加している」が全圏域の中で最も高くなっています。自治会への参加に限ると、若年者、在宅要介護(支援)者においても全体より高い結果となっています。

また、地域づくり活動への参加意向の設問で、一般高齢者では、参加者として「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計が、全圏域の中で最も高く、お世話役としての参加意向も高くなっています。

地域で行われていることの設問において、若年者で「行われていることはない(よく知らない)」の回答割合が、全圏域で最も低く、一般高齢者においても全体より低いことから、自治会活動や公民館での活動の理解度が高いことがうかがえます。しかしながら、在宅要介護(支援)者の生活支援に関して現在困っていることの設問において、「近所付き合い、地域とのつながり」の回答が、他の圏域より高い結果となっています。

困っているときに近くに頼める人の有無の設問においても「近所の人」の回答割合が高く、「頼める人はいない」の回答割合が最も低い圏域となっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れてほしいことでは、若年者が「健康づくり、介護予防や認知症予防の取組」、一般高齢者が「在宅での生活が続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」を望む割合が高くなっています。

どのような介護を受けたいかの設問では、一般高齢者で「自宅で家族中心の介護を受けたい」「自宅で家族の介護と外部のサービスを組み合わせた介護を受けたい」と希望される割合が高い結果となっています。

考察・課題

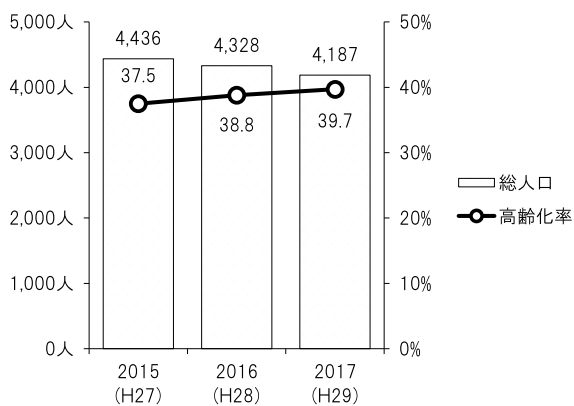
- 地域の活動に対しての意識が高いことから、身近な活動場所を増やし、地域による支え合いの充実を図ることが有効であると考えられます。
- 外出については、自分で運転している一方で、運転できなくなった場合に備えて、移動支援等の検討が必要です。

⑤ 横川圏域

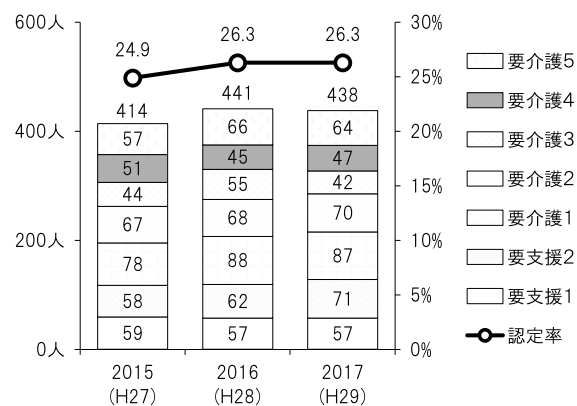
横川圏域では、総人口は減少傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から2.2ポイント上昇しています。認定者数は横ばい傾向となっています。

<図表 No. 64 横川圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|--------------------------------------|----|----------|----|
| 訪問介護 | 1 | 短期入所生活介護 | 2 |
| 通所介護 | 2 | | |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） | | 1 | 50 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 1 | 9 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（地域密着型特別養護老人ホーム） | | 1 | 20 |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|----------------------|----|----|
| 小規模多機能型居宅介護 | 1 | 25 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 1 | 9 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | 1 | 20 |

| | | |
|------------------|-------------------|-------------------------|
| 横川圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
| ● 65歳以上人口 | : 1,630人 | 1,663人 |
| ● 高齢化率 | : 49.5% | 39.7% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 682世帯 | 640世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出について、一般高齢者の移動手段において、「電車」の回答が他の圏域より高くなっていますが、バスや電車を使って1人で外出の設問では、「できるけど、していない」「できない」の割合が全体より高くなっています。

地域活動に関しては、自治会への参加の設問で、全ての調査対象において「参加している」割合が全体より高く、在宅要介護(支援)者では、全圏域の中で最も高くなっています。

地域づくり活動への参加意向においては、在宅要介護(支援)者の参加意向が、「参加者」としても「お世話役」としても『参加したい』の割合が全圏域の中で最も高くなっている一方、若年者の地域活動やボランティア活動等への参加意向では、「あまり参加したくない」の回答が全体の回答の割合より高くなっています。

地域のつながりの有無の設問においては、若年者をみると、「とても感じる」と「少し感じる」を合わせた割合が高い圏域となっていますが、一般高齢者では、全体の回答割合を下回っています。

家族介護者の代わりに介護や支援をしてくれる人の有無の設問において、「代わってくれる人はいない」の回答割合が低い圏域となっています。

希望する生活場所の設問においては、若年者で「現在の住居にずっと住み続けたい」の割合が全体より高い一方で、「買い物や通院に便利な市街地」の回答も他の圏域より高くなっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れてほしいことでは、「在宅での生活が続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」の割合が一般高齢者で、最も高い圏域となっています。

介護予防に関して、介護予防という言葉を知ったことがある割合が若年者では、最も高い圏域である一方で、一般高齢者では、最も低い圏域となっています。介護予防について市町村に力を入れてほしいことの設問においては、若年者で全ての選択項目で全体の回答割合を下回る結果となっています。

考察・課題

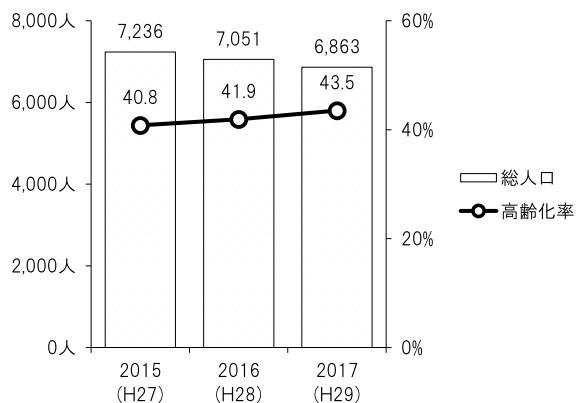
- 自治会等への参加している方の割合は高くなっていますが、介護予防に対しての関心がやや薄いことがうかがえます。地域活動において、介護予防への理解を深めることが重要であると考えられます。
- 社会資源としては、訪問看護・デイケアがなく、地域内に医療系の資源が少ない状況です。地域に住み続けたいと考える割合も高かったことから、今後は、看護小規模多機能型居宅介護などのサービスの整備の検討が必要です。

⑥ 牧園圏域

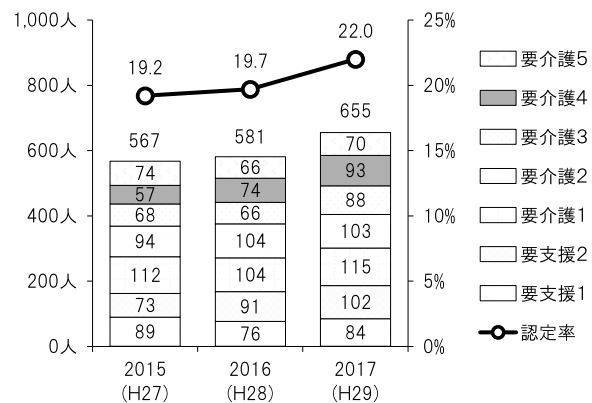
牧園圏域では、総人口は減少傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から2.7ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 65 牧園圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| | 箇所 | | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 2 | 通所リハビリテーション | 2 |
| 訪問看護 | 2 | 短期入所生活介護 | 1 |
| 通所介護 | 2 | 短期入所療養介護 | 1 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） | 1 | | 90 |
| 介護老人保健施設 | 1 | | 70 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | 1 | | 18 |

◆地域密着型サービス事業所数

| | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 地域密着型通所介護 | 1 | 10 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 2 | 37 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 1 | 18 |

| | | |
|--|---|---|
| <p>牧園圏域の人口推計 (2025年推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 65歳以上人口 : 2,826人 ● 高齢化率 : 53.2% ● 65歳以上の1人世帯数 : 1,089世帯 | ← | <p>[2017(平成29)年実績値]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2,982人 43.5% 1,124世帯 |
|--|---|---|

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出について、「控えている」割合が一般高齢者で全体より高くなっています。理由として「交通手段がない」「経済的に出られない」の回答割合が他の圏域と比較して高い結果となっています。在宅要介護(支援者)者においても、「外出を控えている」割合は全体より高くなっています。

自分で食事の用意をしているかの設問において、一般高齢者で、「できるし、している」の回答割合が最も高い圏域となっていますが、食用品・日用品の買い物の設問では、「できるけど、していない」「できない」の回答割合が全体より高くなっています。周囲の環境の困りごとにおいても「買物や通院に不便」の回答が他の圏域より高くなっており、一般高齢者の日常生活で困っていることの設問においても「外出(病院受診・買物等)」が同様に高くなっています。

生活支援に関して、在宅要介護(支援者)の現在困っていることの設問では「外出に関すること」「災害時の避難の際の援助」の回答が他の圏域より高い結果となっています。

地域活動に関しては、一般高齢者では、自治会への参加が全体より低く、地域づくり活動への参加意向も全体より低い結果となっていますが、若年者では、自治会への参加が全体よりわずかに高く、地域活動やボランティア活動等への参加意向も全体より高くなっています。在宅要介護(支援者)者では、自治会への参加は全体より低くなっていますが、地域づくり活動への参加意向については、参加者としての意向が全体より高くなっています。

安否確認や見守り活動の有無については、若年者では「十分」「どちらかといえば行われている」の回答の合計の割合が最も高い圏域となっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れてほしいことでは、「高齢者が生涯働き続けられる環境づくり」の割合が一般高齢者で、最も高い圏域となっています。

考察・課題

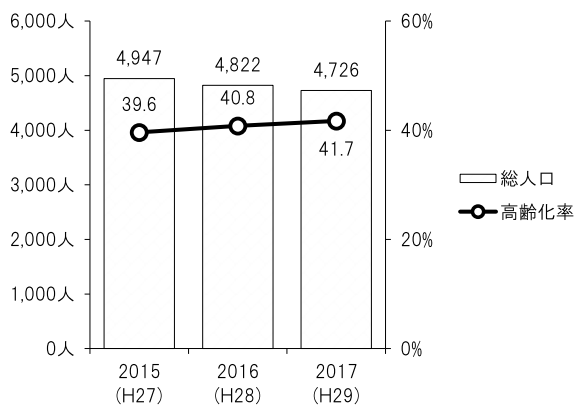
- 買い物を「できるけど、していない」「できない」割合が高いことや、交通手段がないことによる外出控えが見られることから、移動支援等の充実を図る必要があります。
- 一般高齢者の地域活動への参加を増やす必要があります。介護予防への取組等に関して特徴的な傾向は見られませんが、地域活動の必要性の理解を図り、活動参加へつなげていくことが重要です。

⑦ 霧島圏域

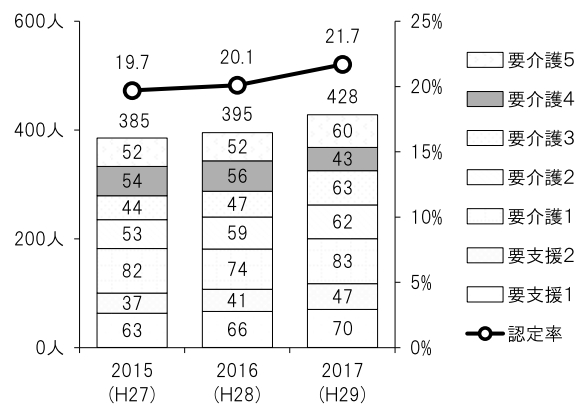
霧島圏域では、総人口は減少傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から2.1ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 66 霧島圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 2 | 通所リハビリテーション | 2 |
| 訪問看護 | 1 | 短期入所生活介護 | 1 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 短期入所療養介護 | 2 |
| 通所介護 | 1 | 特定施設入居者生活介護 | 3 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） | | 1 | 30 |
| 介護老人保健施設 | | 1 | 50 |
| 介護療養型医療施設 | | 1 | 54 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 3 | 54 |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 1 | 12 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 1 | 25 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 3 | 54 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>霧島圏域の人口推計</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 65歳以上人口 : 2,051人 ● 高齢化率 : 51.4% ● 65歳以上の1人世帯数 : 737世帯 | ← | <p>(2025年推計値)</p> <p>[2017(平成29)年実績値]</p> <p>1,969人</p> <p>41.7%</p> <p>673世帯</p> |
|---|---|---|

現状や基礎調査から見てきた課題

一般高齢者において、夫婦2人暮らしの割合が最も高い圏域となっています。

外出に関しては、一般高齢者で、バスや電車を使って一人で外出の設問において「できるけど、していない」の割合が全体より高くなっており、食品・日用品の買物の設問においても同様の結果となっています。

食事の準備については、一般高齢者で「できるけど、していない」の割合が最も高い圏域となっています。

地域活動に関しては、地域で行われていることについて、「行われていることはない（よく知らない）」の割合が、一般高齢者では全体より高くなっているものの、若年者では、全体より低くなっています。地域とのつながりの設問においても、「あまり感じない」「感じない」の合計が一般高齢者では全体より高く、若年者では全体より低い結果となっています。

若年者では、地域活動やボランティアへの参加意向も「参加していきたい」「参加してもよい」の合計が、全体を上回る結果となっています。

安否確認、見守り活動においては、一般高齢者で「どちらかといえば不十分」と「ほとんど行われていない」「わからない」を合わせた割合が最も高い圏域となっています。高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れてほしいことにおいても、「地域における見守り活動の促進」の割合が一般高齢者で、最も高い圏域となっています。

在宅要介護(支援)者の今後在宅生活に必要と感じる支援・サービスの設問においても「見守り・声かけ」の回答が全圏域の中で最も高い結果となっています。

若年者において、どのような介護を受けたいかの設問では、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で」の回答が他の圏域より高くなっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れてほしいことにおいては、「在宅での生活が続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」と回答した割合が、最も高い圏域となっています。

考察・課題

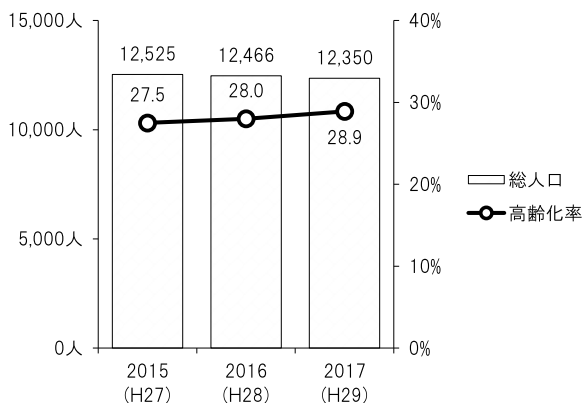
- 地域で生活を続けたい意向が高く、地域ぐるみでの見守りや支援の充実が望まれている結果となっています。
- 社会資源の整備状況に関しては、充実しており、現在の満足度も高い結果となっていることから、新たな整備の必要性は低いといえます。

⑧ 隼人北圏域

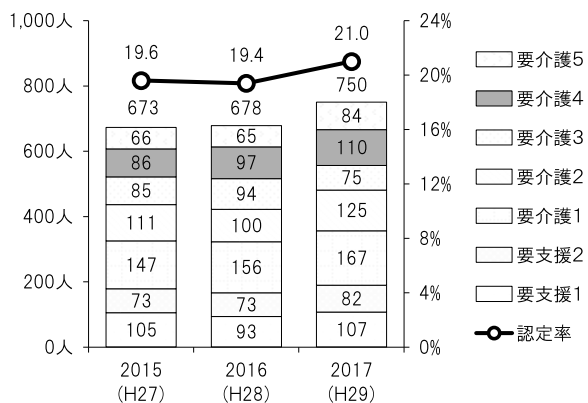
隼人北圏域では、総人口は横ばい傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から1.4ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 67 隼人北圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護(要支援)認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|--------------------------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 6 | 通所リハビリテーション | 2 |
| 訪問入浴介護 | 1 | 短期入所生活介護 | 2 |
| 訪問看護 | 4 | 短期入所療養介護 | 2 |
| 訪問リハビリテーション | 2 | 特定施設入居者生活介護 | 1 |
| 通所介護 | 4 | | |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) | 1 | 50 | |
| 介護老人保健施設 | 1 | 80 | |
| 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) | 3 | 63 | |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(地域密着型特別養護老人ホーム) | 1 | 29 | |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|----------------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 1 | 9 |
| 地域密着型通所介護 | 3 | 48 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 2 | 45 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 3 | 63 |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 | 1 | 29 |

| | | |
|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 隼人北圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
| ● 65歳以上人口 | : 3,881人 | 3,563人 |
| ● 高齢化率 | : 33.0% | 28.9% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 1,477世帯 | 1,225世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出手段として、一般高齢者で「徒歩」の割合が、全圏域の中で最も高くなっています。また、「電車」「路線バス」の割合も全体より高くなっています。

食品・日用品の買い物を「できるけど、していない」の回答が最も高い圏域となっています。

地域活動に関しては、自治会への参加の割合が全ての調査対象において、全体より高いものの、地域づくり活動への参加意向においては、一般高齢者で、「参加者」として『参加したくない』の割合が全圏域で最も高く、「お世話役」としても『参加したくない』の割合も全体より高くなっています。若年者については、「参加していきたい」「参加してもよい」の割合が全体より高い結果となっています。

若年者の将来介護を受ける場合の設問において「自宅で家族の介護と外部のサービスを組み合わせたい」の割合が、最も高い圏域となっています。

介護予防の取組で力を入れてほしいことに関しては、若年者において全ての選択項目で全体を上回る結果となっています。一般高齢者においては「認知症の予防・支援に関すること」を希望される割合が、最も高い圏域となっていますが、認知症の相談窓口を「知らない」と答えた割合は、全体よりも高くなっています。若年者においては、認知症の相談窓口を「知らない」と回答した割合が最も高い圏域となっています。

高齢者が住み慣れた場所で暮らしていける地域づくりに向けて、力を入れて欲しいことの設問では、若年者で「高齢者の生きがいがづくり・ボランティア活動への参加の促進」が他の圏域より高い回答となっています。

考察・課題

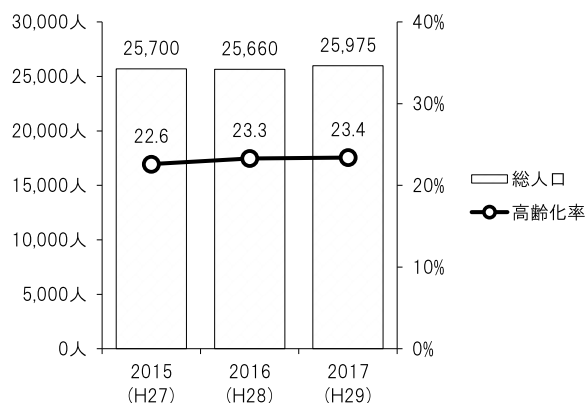
- 地域づくり活動への意識は、あまり高くありませんが、現在の住居で生活し続けたい希望の高い圏域で、認知症に対する関心は高いようです。地域の相談窓口の周知・充実に努めながら、地域づくりの重要性の理解を図り、活動へつなげていくような形が考えられます。
- 「在宅での生活が続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」を希望される割合が高くなっていますが、各種介護保険事業に関しては、圏域別でも非常に充実していると考えられることから、特に新たな整備は必要性は低いといえます。

⑨ 隼人南圏域

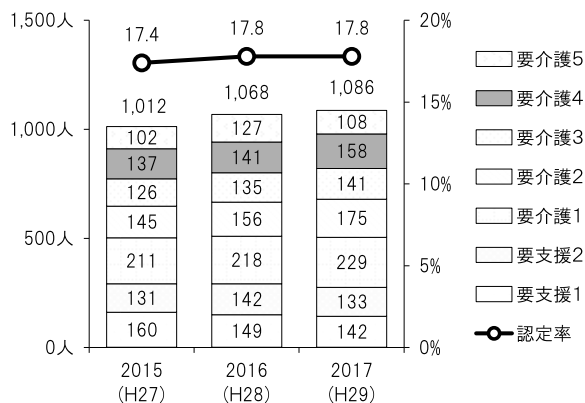
隼人南圏域では、総人口は横ばい傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から0.8ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 68 隼人南圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 3 | 短期入所生活介護 | 1 |
| 訪問看護 | 2 | 短期入所療養介護 | 1 |
| 通所介護 | 2 | 特定施設入居者生活介護 | 3 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人保健施設 | | 1 | 25 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 3 | 63 |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 認知症対応型通所介護 | 1 | 12 |
| 地域密着型通所介護 | 5 | 68 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 1 | 25 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 3 | 63 |

| | | |
|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 隼人南圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
| ● 65歳以上人口 | : 6,636人 | 6,085人 |
| ● 高齢化率 | : 24.8% | 23.4% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 2,873世帯 | 1,970世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

総人口、高齢者人口共に最も多い圏域ですが、高齢化率は、全体より低くなっています。

外出に関しては、一般高齢者で、バスや電車を使って1人で外出しているかの設問で「できるし、している」の割合が他の圏域より高く、外出の際の手段においても「電車」の回答が全体より高い割合となっています。他に移動手段では、「自転車」の回答が他の圏域より高くなっています。

地域活動に関しては、自治会活動への参加の割合が全ての調査対象において、全体より低くなっています。地域づくりへの参加意向についても、一般高齢者の参加者としての意向を除いて、全体を下回る結果となっています。

どのような介護を受けたいかの設問において、一般高齢者で「医療機関に入院して介護を受けたい」との回答が圏域別で最も高い割合となっています。

一般高齢者の周囲の環境の困りごとでは、「困っていることは特にない」の回答が、全体より高くなっています。

考察・課題

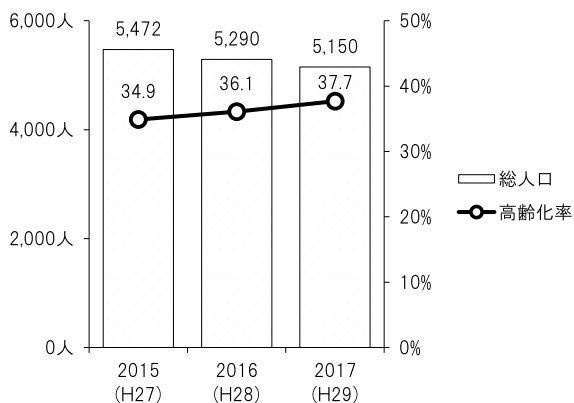
- 「医療機関に入院して介護を受けたい」の割合が圏域別では最も高くなっていますが、在宅での生活を継続させることを望む割合は、他の圏域と同様に高い結果となっています。事業所の整備量は充足していますが、居宅介護支援事業所が多くなっています。今後整備するとすれば、地域密着型の事業所になると思われます。
- 総人口、高齢者数共に最も多い圏域ですので、地域が主体となった介護予防等への取組を支援し、地域活動の活性化を図る必要があります。

⑩ 福山圏域

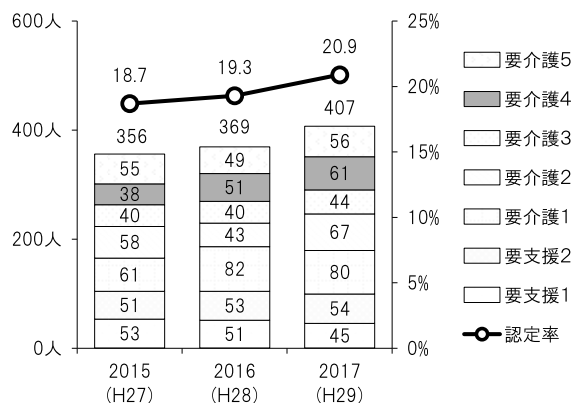
福山圏域では、総人口は減少傾向となっており、高齢化率は2015(平成27)年度から2.8ポイント上昇しています。認定者数は増加傾向となっています。

<図表 No. 69 福山圏域の状況>

◆人口構成の状況



◆要介護（要支援）認定者の状況



◆介護サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 事業種別 | 箇所 |
|-----------------------|----|-------------|----|
| 訪問介護 | 2 | 通所リハビリテーション | 1 |
| 訪問リハビリテーション | 1 | 短期入所生活介護 | 1 |
| 通所介護 | 1 | 短期入所療養介護 | 1 |
| | | 箇所 | 定員 |
| 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） | | 1 | 90 |
| 介護療養型医療施設 | | 1 | 5 |
| 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | | 1 | 9 |

◆地域密着型サービス事業所数

| 事業種別 | 箇所 | 定員 |
|--------------|----|----|
| 地域密着型通所介護 | 1 | 18 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 1 | 29 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 1 | 9 |

| | | |
|------------------|-------------------|-------------------------|
| 福山圏域の人口推計 | (2025年推計値) | [2017(平成29)年実績値] |
| ● 65歳以上人口 | : 2,030人 | 1,944人 |
| ● 高齢化率 | : 50.1% | 37.7% |
| ● 65歳以上の1人世帯数 | : 988世帯 | 742世帯 |

現状や基礎調査から見えてきた課題

外出について、一般高齢者で「控えている」の回答が他の圏域より高くなっています。外出を控えている理由については、他の圏域と同様に「足腰などの痛み」の割合が高くなっていますが、他に特徴的な理由は見られません。また、バスや電車を使って1人で外出しているかの設問において、「できるけど、していない」「できない」の回答が他の圏域より高い結果となっています。移動手段については、「自動車(人に乗せてもらう)」が他の圏域と比較して高くなっています。

その他に、食品・日用品の買物や食事の準備の設問について「できない」が他の圏域より高い結果となっています。周囲の環境の困りごとにおいても「買物や通院に不便」の割合が全体より高くなっています。

在宅要介護(支援)者の今後の在宅生活に必要な支援・サービスの設問においても、回答割合が全体より高い項目が最も多い圏域となっています。

地域の活動に関しては、地域のつながりの設問で「とても感じる」「少し感じる」の回答が、一般高齢者、若年者共に高くなっており、若年者については最も高い圏域となっています。

地域で行われていることについても、「行われていることはない(よく知らない)」の回答が、一般高齢者では0という結果になっています。

自治会への参加については、若年者で最も高く、一般高齢者においても全体より高い結果となっていますが、在宅要介護(支援)者においては、全体より低くなっています。地域づくり活動への参加意向についても同様の傾向が見られます。

安否確認、見守り活動においても「十分」「どちらかと言えば行われていると思う」の回答が、一般高齢者、若年者共に高く、一般高齢者では全圏域の中で最も高い結果となっています。

一般高齢者の困っているときに近くに頼める人の設問においても、「近所の人」の割合が他の圏域より高くなっています。

家族介護者の代わりに介護や支援をしてくれる人の有無においても、「代わってくれる人はいない」の回答が0という結果となっています。

一般高齢者の今後どのような介護を受けたいかでは、「家族に依存せず生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」の回答割合が高くなっています。

考察・課題

- 地域活動に関しては、他の圏域と比べてつながりがある結果となっています。外出控えや、食品・日用品の買物や食事の準備ができないとの回答が多いことから、高齢者の地域活動への参加を促し、閉じこもり防止や地域による生活支援の充実を図ることが有効と考えられます。
- 介護サービスの事業所に関しては、整備量としては充足していると考えられますが、今後も地域で暮らし続けられるよう、必要に応じて地域密着型事業所の整備の検討は必要であると思われます。